

3 月 3 日 助産師さんによる「いのちの授業」を終えて

野口としの助産師さんによるお話は、遠い過去に記憶を戻し、気づかなかった自分の力と支えてくれていた人があることを教えてくれました。これからのみなさんの生き方にもつながるあたたかくて深い内容でした。妊婦体験コーナーでは、赤ちゃん人形の抱っこの体験、妊婦ジャケットを着けての妊婦体験、生まれる直前の赤ちゃんの心臓の音を CD で聴き、自分の心臓の音を聴く体験をしました。体験コーナーでは、助産師さんや保護者の皆さん、たくさんの方々にご指導していただきました。

～ 感想 と 助産師さんへの メッセージ ～

- ・ 今回のお話を聞いて「いのち」の大切さを改めて感じました。自分が今生きていられているということは、本当に奇跡なんだと思いました。私は、仮死状態で生まれ、早く生まれてきたとお母さんに教えてもらいました。そんなことを頭に入れながら今回の授業を受けたので、人一倍「いのち」の尊さ・奇跡に気づけたと思っています。もう自分は「いのち」をつくれる体になりつつあるので、「いのち」についてよく考え、責任をもって行動したいと思います。
- ・ 最初ハートの紙が配られて、何なのかわからなかったけど、助産師さんに「これは私たちの原点である受精卵の大きさだ」と言われたときは、とても驚いた。それからお腹にいる赤ちゃんが大きくなる過程や出産のときの赤ちゃんの出方などを聞いて、赤ちゃんの生命力にもとても驚いた。妊娠中や出産、育児などで、たくさんの苦労や乗り越えなければならない壁があった中で、私がここまで大きく育つことができたのは、家族のおかげだと改めて思った。今、生きていることがとても奇跡なのだとことを知って、自分のいのちを粗末にせず、感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思った。
- ・ 両親の想い、お母さんがお母さんになっていく最初の 1 歩、小さな「いのち」から始まる大切さ、今自分がここにいることができた喜びは、知っているようで知らなかった。まだ、経験も浅く、大人になりきれない私たちがこれから必ず、学んでいくものを少し学んでいけたと思います。例え、つらくて苦しい日があっても、助産師さんのお話を信じて、自分がある喜び、友達や先生に出会えた誇らしさを忘れずにこれからの出会いも大切にしていきたいです。ありがとうございました。
- ・ 赤ちゃんを産むのは、産む方も生まれる方もどちらも大変なことなんだと改めて実感した。赤ちゃんが生まれてくるときに自分で体の向きを変えながら生まれてくるということを初めて知って、驚ろいたし、意外と赤ちゃんは賢いんだなと思った。後、懐かしさも感じた。今までの助産師さんの話を聞いて、赤ちゃん一人を産むのは大変だけど、三つ子や六つ子を産むのは、もっと大変なんだろうなと思った。

- ・ 助産師の仕事は生まれてくる前から生まれるまでだけではなく、生まれた後の生活まで見るということ聞き、非常に重要な仕事だと思いました。その時の対応が間違ふことによって母親と胎児、二人のいのちが失われることもあると聞いて、失敗が許されない仕事だと思いました。自分は男ですが、今回の話を聞いて、出産のことを全て奥さんに一任するのではなく、積極的に関わって、負担を減らしていきたいと思います。今回はありがとうございました。
- ・ お母さんがどれだけ頑張って自分を産んでくれたかがとても理解できる機会になりました。奇跡といわれるほど自分が生まれてくるのはすごいということがわかりました。産まれるまでも大変で、その後も育児があるのでとても大変なことがわかりました。自分が将来、新しいいのちを授かった時は、自分のパートナーと一緒に産まれてくる赤ちゃんを大切に育てていきたいと思いました。いのちの大切さをもう一度再確認できる場所を作ってくださいありがとうございました。これからも助産師の仕事は大変ですが頑張ってください。今日はお忙しい中貴重な時間と体験をありがとうございました。
- ・ 一人ひとりのいのちは奇跡的にあるものといわれ、改めて自分のいのちの大切さを知りました。また、他の人にもいのちを自分自身で大切にしてほしいと思いました。テレビで、幼いいのちが消えてしまうニュースをよく見るので、親も責任を持ってほしいと思いました。私が今普通に生きていられるのは、親、家族のおかげなので、感謝しようと思いました。いのちについて教えていただき、ありがとうございました。
- ・ 小学生の頃、2 回程いのちの授業を受けたことがありました。今回のような体験するというのは初めてでした。後 5 年後には、大人となり、結婚もおかしくない時期になります。そして、子どもを授かったときには、女性を思いやれるような人になりたいです。
- ・ 自分が幼稚園の年長さんだった頃から今までは記憶にありますが、その前のことは記憶にありません。この機会を通して、自分の母親がどれだけの苦勞をして出産し、育ててくれたのかを改めて学ぶことができました。今は、思春期のまっただ中で、両親に反抗してしまうことも多々ありますが、こうして両親への感謝を忘れずにいることも大切だと思います。このような機会を頂きありがとうございました。
- ・ 親に感謝しようと思いました。それは子どもをつくる、産む、育てる大変さを知ったからです。赤ちゃんができるのは奇跡。無事に産めることも奇跡。たくさんの奇跡の中で私を産んでくれた母に感謝です。妊婦になるとちよつとの運動でもとても疲れました。重い妊婦ジャケットのリュックを持っただけで、腰にとっても負担がきたし、かがんだりとても疲れました。母はすごいなと思いました。将来、私に赤ちゃんができたなら、可愛い赤ちゃんにたくさんの愛情をそそぎたいと思いました。

～ 保護者の皆様 ～

お子様のご卒業本当におめでとうございます。

3 年間本校の学校保健活動へご協力いただきましたこと 本当におめでとうございます。

忠生中学校 養護教諭 二見美奈子

2015年度 思春期講座 「いのちの授業」実施について（案）

担当 3学年 養護教諭

1 目的：卒業期を迎え

- 1、 中学生の自己肯定感を育てる
- 2、 誰もが愛されて生まれてきたことを知る
- 3、 助産師の語る「いのちの授業」からいのちの奇跡を知る
- 4、 自分の生き方を考える

2 日時： 2016 年 3月 3 日（木） 2 ・ 3 校時

使用教室： アリーナ （講話）・ 助産師

講師： 助産師（町田市助産師の会）

体験コーナー： 助産師 3人 忠生中の保護者数名

3 時程

9:45	講師紹介	その後講演
10:20	講演終了	体験の準備
10:25	クラスごとに5つの体験をする	（1ブース10分）
11:15	体験終了	移動
11:20	講師よりまとめの話と代表生徒によるお礼のことば	
11:30	アリーナから教室へ移動	感想文を書かせる

4 内容及び（使用の教室） 準備

： 講演 野口としの 助産師 （アリーナ）
体験 赤ちゃん人形・妊婦体験ジャケット・心音など （アリーナ）

- ・ 会場 舞台側に プロジェクター、スクリーンを準備
- ・ ホワイトボード2台用意
- ・ 妊婦体験A 妊婦ジャケット5体 長机 1
- ・ 妊婦体験B 妊婦ジャケット5体 長机 1
- ・ 赤ちゃん人形抱っこA 赤ちゃん人形 3体 長机 1
- ・ 赤ちゃん人形抱っこB 赤ちゃん人形 2体 長机 1
- ・ 心音聴取 聴診器6器 長机 1 CDデッキ

体験の方法

* 各クラスごとに5つの体験をする。 移動を含め1ブース10分程度

5 係分担

司会	（ ）	調整	（ ）
放送機器	（ ）	整列	（ ）

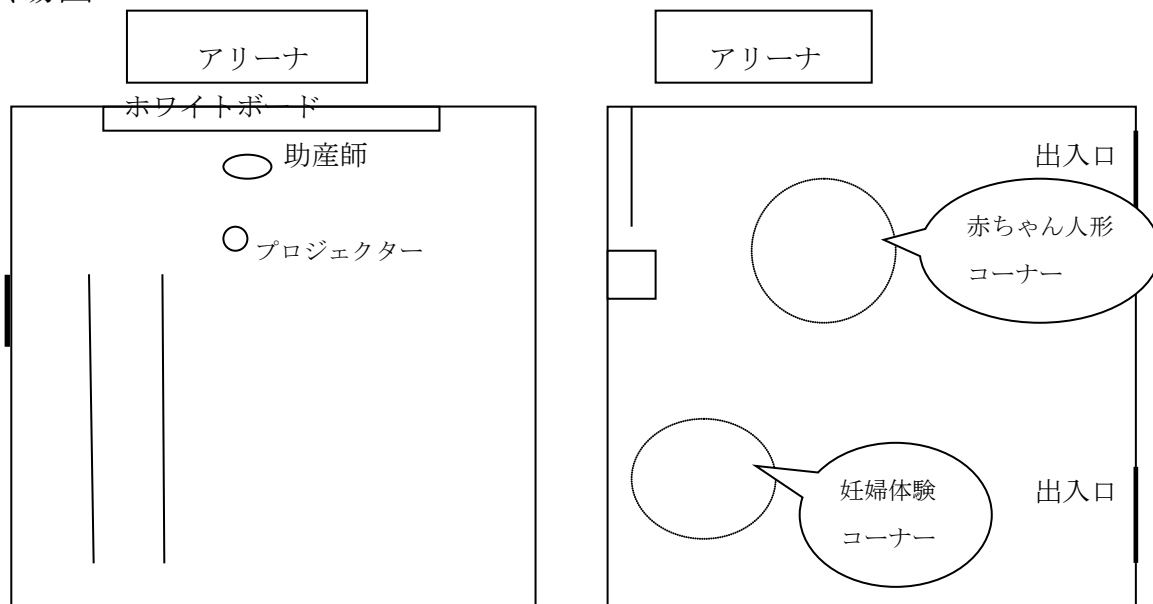
心音聽取 () ()

授業の流れ

クラス	5 校時	6 校時
	<u>講 義</u> 担当 ()	<u>体 験 ・ 感 想</u> 担当 () 赤ちゃん人形 妊婦ジャケット 心音

講義→体験→感想

会場図



クラス縦一列（男女各１列）
男女各１列で奥からつめる
生徒朝礼と同じ並び方

体験：妊婦ジャケットを着る
赤ちゃん人形を抱っこする
心音を聞くコーナー

思春期講座 「いのちの授業」 授業後アンケート

3年 組 名前

◎ 体験コーナーでどんな体験をしましたか

◎ 赤ちゃん人形を抱っこした感想・妊婦体験の感想をかいてください

◎ 助産師さんの話を聞いての感想・助産師さんへのメッセージなど書いて下さい。

思春期講座 「いのちの授業」

3年 組 名前

助産師さんの話

～心に留めておきたいことをメモしながら聞いて下さい～